



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ANQ Congress Yokohama 2024へのお誘い
- 2-私の提言 「組織の質」へのアプローチ
- 2-ルポルタージュ 第437回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第138回クオリティ・ツールポ/JSQC規格講習会ルポ
- 4-行事案内/教員公募

ANQ Congress Yokohama 2024へのお誘い

JSQC国際交流担当理事 松浦 峻

2024年9月16～20日に慶應義塾大学矢上キャンパスにて、Asian Network for Quality (アジア品質ネットワーク、ANQ) による国際会議、ANQ Congress Yokohama 2024が開催されます。Asian Network for Qualityは、アジアを中心とした諸国・地域における「品質」に関連した学術団体の組織の集まりで、前身のAsian Quality Symposiumを発展させて、2002年に10組織によって発足し、現在では、今年正式に加入したBangladesh Society for Total Quality Management (バングラディッシュ)を含めた20のMember Organizations、3つのAffiliated Member Organizations、1つのPartner Organizationを合わせて24の組織によって構成されています。2003年に第1回のANQ Congressが開催されて以来、今回で22回目のANQ Congressとなります。

昨年のANQ Congress 2023はベトナムで開催され、全体で200名近い参加があり、特に日本品質管理学会 (JSQC) からは約50名の参加者および研究発表がありました。今年は、標記の通り、ANQ Congress 2024が慶應義塾大学矢上キャンパスで開催されることになっており、現在ANQのChairpersonを務める山田秀教授 (慶應義塾大学) を中心として、開催への準備を進めております。

慶應義塾大学矢上キャンパスは、東急線や市営地下鉄の通る日吉駅 (横浜市) が最寄りであり、そこから少々(10～15分程度)歩きますが、慶應義塾大学の理工学部3,4年生および理工学研究科の大学院生、計3500名を超える学生が所属する大きなキャンパスですので、大規模な国際会議の開催地として十分なキャパシティを持っています。

日本での開催は、ANQ Congress Tokyo 2009が早稲田大学で開催されて以来、15年ぶりとなります。研究発表を行う予定

の方はもちろん、日本で開催されるこの機会に多くの方にぜひ足をお運びいただきましたら幸いです。

参加申し込み (Registration) は、ANQ Congress Yokohama 2024のウェブサイト：<https://pub.confitatlas.jp/en/event/anq2024>より案内いたします。本稿執筆時点では、まだ参加申し込みの受付は始まっておらず、5月中旬頃の開始を予定しています。参加費が安く設定されるEarly Birdは7月15日までにありますので、お早めに申し込みいただければと思います。今回はConfitというウェブシステムと契約して、ウェブサイトの整備を進めています。海外からの投稿者は原則このウェブサイトから研究発表の申し込みをしていただくことになります。一方、JSQCからの研究発表の申し込みは昨年までのANQ Congressと同様に、Editorial Manager (<https://www2.cloud.editorialmanager.com/tqs/default2.aspx>) を通じていただいています (Registrationおよび参加費の支払い等はJSQCの方も海外の方もいずれも上記のConfitのウェブサイトを通じて行います)。最終的には、両者を一元化して、全ての発表論文 (フルペーパー) からなるプロシーディングを作成することになりますが、そのような作業も容易に可能なシステムになっているとのことです。

毎年、JSQCの方からANQ Congressに投稿されたアブストラクトおよびフルペーパーについて、複数名の審査員による評価が行われ、特に高評価を得たものはBest Paper Awardsに選出されて、ANQ Congress当日に表彰されます。対象となるのは、発表論文のうちの約10%という狭き門ですが、特に意欲のある学生の方

どにはぜひ受賞を目指して、質の高いフルペーパーの作成に取り組んでいただければと思います。実際、例年、数人の学生が受賞対象に選ばれています。今回だけでなく、来年度以降のANQ Congressでも積極的な研究発表を期待しています。

上記のウェブサイトでも掲載されておりますが、本国際会議のテーマ (Congress Theme) は「Prosperity through Quality - Returning to Origins, Leaping into the Future-」と決まりました。このテーマは、早稲田大学で開催されたANQ Congress Tokyo 2009のテーマである「Prosperity through Quality - The ANQ Way-」を踏まえたもので、品質を通じた繁栄を目指すという原点に回帰しつつも未来に向かってさらに羽ばたいていくという決意が込められたものと考えています。今回のANQ Congress Yokohama 2024が、今後の国際社会における品質の発展の契機の一つとなることを願っています。

また、ANQ Congressに関連したこととして、JSQCが発行する英文での学術雑誌のTotal Quality Scienceについても少し紹介したいと思います。Total Quality Scienceは2015年に始まった論文誌で、ANQ CongressでJSQCから研究発表がなされたフルペーパーで上位の評価を得たものを対象に投稿へのお誘いを送り、匿名の査読者による査読を経て、査読付き論文として掲載されるものです。品質に関連した研究に取り組む学生の方にとっても、貴重な機会になっているものと思います。

今後のJSQCの発展には、国際的な観点での活躍が不可欠なものと考えます。会員の皆様には、ぜひANQ Congress Yokohama 2024への積極的な参加をご検討いただけましたら大変嬉しく存じます。

● 私の提言 ●

「組織の質」へのアプローチ

桜美林大学ビジネスマネジメント学群 准教授 川崎 昌



日本品質管理学会に入会してちょうど10年になります。社会人大学院生として当学会で初めて研究発表を行ってから現在まで、調査や実験の方法論やそれらをデータサイエンス教育で活用するための手法を中心に、研究会で発表を重ねてきました。発表のたびに座長や参加者の皆さまから貴重なコメントをいただき、それにより研究を発展的に継続させることができています。

私が専門とする研究領域は、工学ではなく経営学・社会学・心理学に関連する社会科学です。そのため、学会に

入会した当初は未知の世界に飛び込んだような感覚がありました。しかし10年が経ち今では、今回の研究発表会ではこの発表を聞きたい、この発表や論文は自分の（あるいは指導している学生の）研究の参考になりそうだと思うような状態に変化しました。さらに、日本における品質管理の歴史や学会に蓄積している知見を理解するにつれ、これらを社会科学の研究領域にもっと応用できるのではないかと、ぜひ応用したいという気持ちが強くなりました。

これからの10年で私が研究したいテーマのひとつが「組織の質」です。当学会の中心には「製品・サービスの品質」があるように感じていますが、学会のミッションには「製品・サービスの質、仕事の質、生活の質などあら

ゆるQuality（質）向上に役立つ技術・手法を研究・開発し、その成果をすべての分野に普及させることによって人と組織、社会の幸福に貢献します」と示されています。

「組織の質」や組織風土づくりに関しては、1960年代から続くQCサークル活動の現場やTQM（総合的品質管理）の取り組みの中にも知見の蓄積があると思います。一方で、近年急速に労働環境の変化や個人の価値観の多様化が進み、人工知能による仕事の質の変化にも注目が集まるなか、その影響は「組織」にも及ぶと考えられます。よって、時代の変化を捉えた「組織の質」の定義、「組織の質」向上に寄与する要因の整理、そして「組織の質」を高める技術・手法の開発まで、検討・アプローチが必要です。企業に所属する会員も多い学会ですから、産学連携して「組織の質」に関する議論・研究を進めることができます。興味がある方、ぜひ一緒に進めませんか。

第437回
事業所見学会
ルポパナソニック
ライティングデバイス

2023年9月22日(金)にパナソニックライティングデバイス(株)にて、“あかり文化の新しい時代へ照明事業で培ったコア技術を応用展開して、新しいデバイスを生み出す”をテーマに新価値創造の取組み事例の事業所見学会が開催され、26名が参加した。パナソニックライティングデバイス(株)は、「役に立つあかり」を提供することが使命であると松下幸之助創業者の強い想いを持って1936年ナショナル電球を発売して以来、85年以上の歴史ある会社です。照明事業で培った「コア技術」を競争優位の源泉として、光波長応用商品、タングステン応用商品など、独自の新価値を見出し提供する企業に進化されています。

今回の事業所見学会は、パナソニックライティングデバイス(株)の会社説明及び現在推進されている新価値創造に対する取組み、QCサークル活動の事例紹介（パナソニックグループQCサークル世界大会グランプリ受賞）、ショールーム及び工場内見学など、興味深い内容が盛り沢山でありました。

ショールームでは、長年培ったコア技術である光源技術、回路設計技術、光学設計技術を融合・発展させることで生み出した新しいデバイスを「見て」、「触れて」、「体感する」ことができました。苺栽培農家を悩

ます「うどんこ病」などの植物病害発生を抑える紫外線（UV-B）電球形蛍光灯の紹介や、肉眼では確認出来ない呼吸器などの健康影響が懸念される微小粒子状物質をホコリセンサー（PM2.5センサー）を利用したIAQ（室内空気質）の見える化の紹介、光の飛行距離を使って被写体との距離を撮影するTOFカメラ、ランプのフィラメントやコイルなどの製造によって培った加工技術で、金属線タングステン極細線や、超高強度タングステン線の応用商品で、照明分野以外の耐切削手袋「ストロングンテ」の紹介をされていました。この「ストロングンテ」は、一般的なステンレスの約2倍の強度を持つ「タングステン」という金属を髪の毛の約4分の1の細さに加工して編み込むことで耐切削性としなやかさの両立を実現されているそうです。

工場内見学では、全てのブースで5Sが徹底されていて、作業要領や注意事項等は写真付きで具体的に分かりやすく掲示されていました。特に階段の手すりには「手すりを握りましょう」の表示に心が安らぎました。また謎(?)の「からくり部」では、その名の通り、からくり機構を利用した電源等を利用しない、エコで環境・作業者そして、お財布にやさしい(笑)、作業改善装置を自作されているのには非常に驚きました。

最後に、業務ご多忙の折にもかかわらず、ショールームの皆さま及び各工場の皆さまには丁寧なご説明と、充実したショールーム・工場を見学させていただきまして、厚くお礼申し上げます。

岡山 晃章（株）中北製作所

第138回 クオリティーク ルポ

モノからコトへの品質保証 体系図—新しい価値創造の ビジネスモデルを描く—

2023年11月30日、上記表題のクオリティークが開催された。講演者は『2030年の品質保証—モノづくりからコトづくりへ』の編者として知られる細見純子氏である。

講演の冒頭で変化する現在の社会を概観し、組織においては従来型（ピラミッド型）のマネジメントから循環型への転換が必要であることが提示され、これは企業にいる者として非常に同感できるものであった。また、品質（価値）を決めるのはお客様である部分是不変であるが、対象となるお客様が変わり、お客様の期待の内容も変わっていくこと、また、VUCAの時代・多様化の時代だからこそ、ある顧客層を想定したマーケットインというより、個へ直接アプローチするコトづくりが必要という提示があった。

今後は「コト」の市場規模が拡大していくことから、モノが期待どおりであるというCSだけでなく、驚き・

感動の領域であるCXを狙わなければならないという主張があり、これをサービスエクセレンスのピラミッドも交えて説明された。加えて、SEDAモデル、デザイン思考といった紹介もなされた。

コト品質のためには、リアルタイムでお客様の行動を把握し、すぐに、あるいは予防的に対処できることが必要である。また、顧客ニーズも多様化しており、スピード重視で新しい取組みができ、60点でも褒められる文化、そのための積極的な権限移譲ができる組織に転換しなければならないという点も同意である。

続いて「2030年の質価値創造研究会」の活動について紹介された。QC×DX×SDGsのSDQキューブという概念や、研究会で考案したバリューチェーンシート、SDQテンプレートなどの提示があった。さらに、ある伝統工芸企業がデジタルを活用しながらコト品質を追求している事例とその品質保証体系図の紹介があった。

多くの企業がコト品質についての様々なアプローチを試みていると思うが、そのための考え方や手段についての具体的な示唆に富んだ、有益な講演会であった。

小川 文子（オークマ㈱）

JSQC規格 講習会 ルポ

「小集団改善活動の指針」 —小集団改善活動を 推進する—

2024年2月6日(火)13時30分からJSQC規格「小集団改善活動の指針」(2015.5)の講習会がZoomオンラインで開催され、全国26名の方々が参加された。斉藤事業・広報委員会委員のご挨拶で始まり、講師は村川技術士事務所の村川賢司氏で、規格要点の94枚の補助資料にもとづき、わかりやすく本規格を説明された。

講習会の目的は、TQMのさらなる普及・発展に資する小集団改善活動の重要な概念と推進方法を学ぶものです。TQMを実践している組織、QCサークルなどを推進・実践している組織・人々が対象です。

全部門・全階層の参加のもとに、品質・質を中心にプロセス・システムを改善・革新するために小集団改善活動を活用する意味・意義について、問題・課題の取り組み、QC的考え方・手順・手法を含めて分かりやすく説明を受けた。能力の向上と組織の活動推

進の仕組み、チーム改善活動とQCサークル活動の差異についても強調された。TQMの方針管理、日常管理を支援する中核的な位置に小集団改善活動（部門横断の改善チーム、部門別の改善チーム、QCサークル活動）がある。その基盤には品質管理教育が重要で、小集団改善活動を職場型・横断型・継続型・次元型に分けて活用すること、さらに、目的志向に基づくチーム改善活動における導入期・展開期・定着期の推進重点項目設定も実践上参考になった。

最後の質疑応答では、放任主義はよくないこと、トップの関与の重要性、推進者の相互研修する場の意義、人材育成の一貫性（改善チームのリーダー要件とメンバーの選定基準など）、地域のQC研修会の活用、チーム改善活動（課題を設定後にチームを選定する）とQCサークル活動（チーム構築後に課題を設定する）の基本的な進め方の違いについて、活発な意見交換がなされ、4時間があっという間に過ぎた有意義な講習会であった。

永井 庸次（永井労働衛生コンサルタント事務所）

行事案内

●第141回クオリティトーク（東日本）

テーマ：品質不正の未然防止

ゲスト：永原 賢造 氏（プロセスマネジメントテクノ）

日時：2024年5月17日(金)17:30～20:00

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：<https://jsqc.org/141qtalk/>

●第134回研究発表会（本部）

日時：2024年5月25日(土)10:00～19:00

会場：日科技連・東高円寺ビル

プログラム：

10：05～10：55

チュートリアルセッションA

「ISO9001の改訂動向及び品質マネジメントシステムの今後の方向性」

須田 晋介 氏（テクノファ）

11：00～11：50

チュートリアルセッションB

「データを見る目と使い方の鍛え方」

小茂田 岳広 氏（トヨタ自動車）

13：00～17：05 研究発表会

17：15～19：00 情報交換会 優秀発表表彰

詳細・申込：<https://jsqc.org/134technical/>

●第135回研究発表会（中部）

日時：2024年8月28日(水)

会場：名古屋工業大学

(1) 申込期限

発表申込締切：5月31日(金)

予稿原稿締切：7月19日(金)必着

参加申込締切：8月21日(水)

(2) 研究発表・事例発表の詳細・申込方法

<https://jsqc.org/135technical/>

(3) 参加申込

7月上旬にホームページにてご案内します

教員公募

慶應義塾大学 理工学部管理工学科／
大学院理工学研究科（OSM分野）

募集人員 助教（有期）1名

所属 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科

慶應義塾大学大学院 理工学研究科 開放環境科学専攻（オープンシステムマネジメント専修）

研究分野 経営工学、管理工学分野の理論と実践に興味があり、オペレーションズ・リサーチ、特に確率モデルに立脚した研究、教育を意欲的に進める人材を求める

着任時期 2024年10月1日以降で2025年4月1日までのできるだけ早い時期

応募締切 2024年6月17日(月)必着

詳細 慶應義塾大学 教員公募

https://www.st.keio.ac.jp/corporations/recruit/20240308_01.html

●第142回QCサロン（関西）

テーマ：ドローン新規事業の現状と展望

ゲスト：那須 善行 氏（那須管財）

日時：2024年6月11日(火)19:00～20:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：<https://jsqc.org/142qcsalon/>

●JSQC規格「方針管理の指針」講習会

日時：2024年6月13日(木)13:30～17:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

講師：村川 賢司 氏（村川技術士事務所）

詳細・申込：https://jsqc.org/std33-001_2024/

●第152回講演会（関西）

テーマ：人材育成と品質不正の防止

日時：2024年6月25日(火)13:30～16:45

会場：日科技連 大阪事務所内 研修室

およびオンライン（Zoomミーティング）

プログラム：

事実に基づいて考え、判断できる技術人材の育成

猪原 正守 氏（大阪電気通信大学）

KOBELCOグループの品質への取り組み～KOBELCO TQM活動～

興石 房樹 氏（神戸製鋼所）

詳細・申込：<https://jsqc.org/152lecture/>

●第445回事業所見学会（東日本）

テーマ：トヨタグループの小型車両の生産

拠点であるトヨタ自動車東日本の工場を、現地現物で見いただきます

日時：2024年6月28日(金)12:00～17:30

見学先：トヨタ自動車東日本(株)大衡工場

（宮城県黒川郡大衡村）

定員：20名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

詳細：<https://jsqc.org/445visit/>

●JSQC規格「日常管理の指針」講習会

日時：2024年7月11日(木)13:30～17:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

講師：古谷 健夫 氏（クオリティ・クリエーション）

詳細・申込：https://jsqc.org/std32-001_2024/

●第147回講演会（東日本）

テーマ：それは、TQMに関する誤解です！

－誤解・疑問を解き明かし、TQMのポテンシャルを100%引き出して経営パフォーマンス向上につなげる－

日時：2024年7月29日(月)13:15～17:35

会場：日科技連 東高円寺ビル2階講堂

プログラム：

誤解を紐解く解説－その1

1) TQMに関する23の誤解／2) 品質管理をやっても儲からない（誤解12）

金子 雅明 氏（東海大学）

誤解を紐解く解説－その2

1) 顧客満足のために、何でもお客様の言うとおりにすべきなのか（誤解3）／

2) 品質管理で顧客価値創造ができるのか（誤解14）

平林 良人 氏（テクノファ）

だから今こそ魂の入ったTQMに

飯塚 悦功 氏（東京大学）

質疑応答

質疑応答

詳細・申込：<https://jsqc.org/147lecture/>

●ANQ Congress 2024 Yokohama

テーマ：Prosperity through Quality

－Returning to Origins, Leaping into the Future－

日時：2024年9月16日(月)～20日(金)

会場：慶應義塾大学 矢上キャンパス

詳細：https://jsqc.org/anq_2024/

事務局

JSQCホームページ：<https://jsqc.org/>

本部：E-mail：jimmyoku@jsqc.org

FAX：03-5378-1507

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

FAX：050-3535-8675

関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org

FAX：06-6341-4615